

シラバス情報

授業方法	講義・実験・ 実習		
系列	実習		
科目名	シャシ整備		
必修・選択	必修科目 ・選択科目		
対象学科	一級自動車整備科・二級自動車整備科		
年次学期・曜日・時限	1年前期	木～金曜日	1時限～8時限
時限数	83. 6時限(期末試験を除く)		
担当教員名	友川 強史・廣石 泰大・(他1名)		
実務経験	有 ・無 國土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となるシャシの構造や調整作業についての実習を実施する。		
授業の目的	自動車整備において必要となる緩衝装置や動力伝達装置の構造、機能、点検及び調整作業を実施する。		
テキスト	実習テキスト		
授業計画			
授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト範囲
第1回	一般工具、特殊工具取り扱い	自動車整備に用いる一般工具及び特殊工具の取り扱い方を習得する。	実習テキスト(工具)
第2回			
第3回	動力伝達装置	各種動力伝達装置において各部の名称、構造、作動確認及び点検、調整要領を習得。	実習テキスト(パワトレ)
第4回			
第5回			
	ステップ試験(中間試験)	第1回～第5回までの授業内容に関する実技試験	別途課題
第6回	差動装置及び終減速装置の構造、作動確認	F F、F R車共に取付位置の確認実施。F R車にて終減速比の確認、差動の確認	実習テキスト(デフ)
第7回	差動装置の脱着、構造確認	車両からの差動装置の脱着作業に関わる注意事項及び構造、作動を確認	実習テキスト(デフ)
第8回	緩衝装置及びアクスルの構造確認	各車両の緩衝装置(独立、車軸懸架式、全浮動及び半浮動型)の構造確認	実習テキスト(アクスル)
第9回	操舵装置の分解、組立、構造、作動確認	車両にて取付位置、作動確認。単体にて分解組立作業に関わる注意事項を確認	実習テキスト(ステアリング)
第10回	マニュアル・トランスミッションの分解、組立、構造作	M Tの構造及びシンクロ機構の作動、内部において動力の伝達経路を確認	実習テキスト(M T)
第11回	緩衝装置の脱着、構造確認	車両からの緩衝装置の脱着作業に関わる注意事項及び構造、作動を確認	別途資料

	ステップ試験（中間試験）	第6回～第11回までの授業内容に関する実技試験	別途課題						
	期末試験	第1回～第11回までの授業内容に関する実技試験							
到達目標	自動車整備において必要となる緩衝装置や動力伝達装置の構造、機能、点検及び調整作業を理解する。								
成績評価方法	平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、ステップ試験（中間試験）並びに期末試験を合算して行う。								
定期試験受験資格	開講された全時限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した時限がある場合は、補講も完了している者。								
成績評価基準	<p>成績評価は、期末試験の点数が40点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>中間試験の点数</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末試験の点数</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td>30%</td> </tr> </table> <p>上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。</p> <p style="text-align: center;">60～69点 = 可、70～79点 = 良、80～89点 = 優、90点以上 = 秀</p> <p>60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点 = 可とする。</p>			中間試験の点数	30%	期末試験の点数	40%	平常点	30%
中間試験の点数	30%								
期末試験の点数	40%								
平常点	30%								
成績評価できない場合の基準	全実習を終了時点の出席率が50%を満たしていない場合、 又は、成績評価が60点未満の場合。								